

## 米の新たな需要を開拓できる新形質品種

農業総合研究所

### 要 旨

近年、今までにない新しい形質を持った水稻品種が数多く育成されており、これらを利用すれば、米の新たな需要開拓へ向けた取り組みが可能である。このうち、健康機能性成分を豊富に含む巨大胚品種と赤米品種並びに粉食利用など加工用原料米として低コストで生産できる多収品種について、京都府における栽培特性を明らかにした。

### 成果の概要

- ① 巨大胚品種：「はいみのり」、「中国183号」、「めばえもち」  
胚芽の部分が大きく、血圧降下作用のあるγ-アミノ酪酸（ギャバ）を多く含む発芽玄米など健康機能食品の素材として利用できる。出芽性がやや劣るため、播種量を普通品種より「はいみのり」で2倍、「中国183号」、「めばえもち」で1.4倍程度に多くする必要がある。
- ② 赤米品種：「ベニロマン」、「紅染めもち」  
ぬか部分に赤色の色素を含み赤飯や赤酒等に利用できる。抗酸化物質が含まれ、健康機能性が注目される。赤米品種としては短稈で耐倒伏性が強く栽培しやすい。「ベニロマン」は極晩生のため赤米生産の場合は京都市以南に適するが、芒が赤く着色していることから、その他の地域でもドライフラワーや景観形成等の観賞用として利用できる。
- ③ 多収品種：「北陸193号」、「タカナリ」、「おどろきもち」  
各品種とも耐病性や耐倒伏性に優れ、極多収が得られる。これらの特性を活かした直播等の低コスト栽培により、米粉パン等の粉食用途をはじめとする加工用原料米を低価格に生産できる。各品種ともやや長粒。



巨大胚品種（はいみのり）



赤米品種（ベニロマン）



多収品種（タカナリ）

表 新形質品種の生育、収量及び玄米形質

種 類	品 種 名	出穂期 (月. 日)	成熟期 (月. 日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	精玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
(標準)	ヒノヒカリ	8.18	9.28	86.0	19.0	359	566	22.7
巨大胚	はいみのり	8.18	10.03	84.7	18.2	255	518	19.9
巨大胚	中国183号	8.17	9.29	81.9	18.5	333	520	20.0
巨大胚	めばえもち	7.26	9.03	72.8	20.8	414	449	21.1
赤 米	ベニロマン	8.28	10.16	81.2	20.3	391	559	22.6
赤 米	紅染めもち	8.20	9.29	81.6	18.2	390	510	20.0
(標準)	日本晴	8.14	9.23	87.0	21.0	372	673	23.2
多 収	北陸193号	8.13	9.30	86.7	27.6	264	829	22.9
多 収	タカナリ	8.09	9.23	78.0	26.4	295	805	21.3
多 収	おどろきもち	8.09	9.22	77.5	27.1	288	793	20.1

注) はいみのりはH15年、めばえもち、紅染めもち、タカナリ、おどろきもちはH16~17年、その他はH15~17年の平均値。窒素施肥量は、巨大胚、赤米品種で10.3kg/10a、多収品種で14.8kg/10a。田植日は、H15年とH16年は5月20日、H17年は5月19日。

(問合せ先：Tel. 0771-22-5010)

